急激ニ増加スルモノニ非ズ、且利子歩合ハ其ノ時ニ於ケル資金ノ需要ニヨリテ多小ノ高低ハアレトモ大体ニ於テハ其ノ国ノ市場ニハ自ラ利子歩合ノ定シテ甚タシキ変化ナキヲ常トス若シ其ノ時ニ於ケル利子歩合ニシテ原因ノ如何ヲ問ハス其ノ市場ニ於テ普通行ハルル利子歩合ヨリ低クナルトキハ企業家ハ之ヲ利用シテ企業ヲ営ム時ハ多クノ利益ヲ得ルコト可能ナリト信スルカ故ニ争ヒテ之ヲ利用シテ企業ヲ興隆シ又ハ企業ヲ創立セントスル可シ、経済社会ハ活気ヲ呈シテ資金ニ対スル需要ハ増加スルモノナレハ利子歩合ハ再ヒ高マリ来ル所謂金融繁忙ナル時ナリ、之レニ反シテ利子歩合ニシテ其ノ市場ニ於ケル利子歩合ヨリ高クナル時ハ企業家ハ之ヲ利用スルモ相当ノ利益ヲ挙クル望少キモノナレハ企業ヲ縮少セントス、資金ノ需要減シ利子歩合ハ再ヒ低落スル所謂金融緩慢ナル時ナリ、カクノ如クニ利子歩合ハ大体ニ於テハ一定シテ甚タシキ変動ヲ生スルコトハ稀ナリ、又一面或ル市場ニ於テ利子歩合カ比較的ニ低キ時ハ利子歩合ノ高キ市場ヲ求メテ多ク供給セラルルカ故ニ一国内ニ於ケル利子歩合ハ自ラ平均スル傾向アルノミナラス国際間ニ於テモ資金ノ供給潤澤ニシテ利子歩合低キ国ノ資本家ハ経済ノ進

歩稍々後レテ資金ニ対スル需要多ク利子歩合高キ国ヲ求メテ資金ヲ輸出スルカ故ニ経済ノ進歩セル国ニ於ケル利子歩合ハ急激ニ低落スルコトナキナリ、而シテ資金ノ供給益々多ク利子歩合益々低落スル時ハ資本ヲ貯蓄スルモ多クノ報酬ヲ受クルコト能ハサルヲ以テ自ラ之ヲ貯蓄スル者ヲ減シ従テ資本ノ増加ヲ止ムル傾向アリ、但シ資本ノ供給ハ増加ヲ止ムヘキ利子歩合ヘ何程ナルカハ之ヲ豫言スルコト能ハサルナリ。

資金ヲ利用スル者ハ銀行ニヨリテ之ヲ求ムルヲ常トス、故ニ経済市場ニ於ケル利子歩合ハ銀行カ資金ノ需要ニ応スル場合ノ報酬ナリトスルコトヲ得銀行カ資金ヲ融通スル方法ニ二アリ、手形ノ割引及貸付是ナリ、手形ノ割引トハ銀行ト取引関係ヲ有スル者カ銀行ヲシテ為替手形又ハ約束手形ニ対シテ支払期日ニ至ルマテノ利子ヲ控除シテ買受ケシムルコトヲ云フ。上ニモ述フル如ク経済社会ニ於テ企業熱高マリテ資金ノ需要多キ時ハ手形ノ割引ヲ請フ者多ク割引歩合ヲ高クシテ割引歩合ニシテ高キ時ハ其ノ反動トシテ手形ノ割引ヲ請フ者少クシテ企業熱ヲ冷却セシムルモノナリ、貸付歩合ノ高低ト企業ト

トノ関係ハ割引歩合ト同シ、然ツテ利子歩合ニハ割引歩合ト貸付歩合トノ別アリ。手形ノ割引ハ其ノ利子ハ手形ノ割引ト共ニ之レヲ收ムルノミナラス其ノ資金ハ手形ノ割引ノ性質トシテ短期ニ回收スルコトヲ得可ク且ツ資金ヲ回收スルコト能ハサル時ハ法律ニヨリテ比較的容易ニ救済ヲ求ムルコトヲ得ルカ故ニ割引歩合ハ貸付歩合ニ比較シテ低ク経済市場ニ於ケル利子歩合ノ基本トナレルモノナリ、割引歩合ニ銀行利子歩合又ハ銀行利率トハ中央銀行カ一定ノ條件ヲ具備シタル手形ヲ割引ク場合ニ用フル利子歩合ヲ云フ、我カ国ニ於テハ日本銀行カ当所払ノ手形ヲ割引ク時ニ用フル利子歩合ハ中央銀行以外ノ主ナル銀行カ最モ緩心ナリ、之レニ反シテ市場利子歩合ハ中央銀行以外ノ主ナル銀行カ最モ緩良ナル手形ヲ割引ク時ニ用フル利子歩合ヲ云フ、銀行利率カ利子歩合ハ中心ヲナス所以ハ普通ノ銀行カ資金ヲ需要スル場合ニハソノ割引シタル手形ヲ中央銀行ニ出シテ之カ再割引ヲ請求スルモノナルカ故ニ銀行利率ニシテ高キ時ハ自ラ其ノ割引歩合ヲ高クセサルヲ得ス、故ニ中央銀行ノ利子歩合ノ高低ハ経済社会ニ大ナル影響ヲ及ホスモノナリ。

経済社会ニ於テ資金ノ貸借ノ最頻繁ニ行ハルルハ短期ノ貸借ナルカ故ニ之ニ就キテ利子歩合ノコトヲ説明シタレトモ資金ハ又長期ニ貸借セラルルコト少カラス、公債社債ノ募集ニ應シ不動産ヲ抵当トシテ資金ヲ貸付クルカ如シ長期ノ貸借ハ危險ノ程度大ナル恐レアリ、危險ノ程度大ナラストスルモ資金ノ回收容易ナラサルカ故ニ公債社債等ノ場合ニ非ラサレハ容易ニ行ハレサルモノナリ、公債ハ信用ヲ及クル者カ国家又ハ地方團体ナルカ故ニ信用最厚ク投資トシテハ最安全ナリト云フコトヲ得、然レトモ公債ノ利子ハ危險少キカ為メ殆ント純利子ニ考シキモノナリト云フコトヲ得、投資承ノ受クル報酬ハ少キナリ、假令適々其ノ募集当時ノ事情ニヨリテ利子歩合比較的ニ高クトモ借代ヘサルルコトアルカ故ニ概シテ投資家ノ受クル報酬ハ少キモノナリト云ハサルヲ得ス、社債ハ其ノ企業ニシテ基礎堅固ナル時ハ公債ノ場合ト同シク其ノ利子歩合比較的低クアレトモ危險少シト云フコトヲ得。

資本ヲ所有スル者カ株式会社ノ株券ヲ求メテ比較的多クノ收益ヲ得ントスルコト少カラス、株式会社ハ株主ハ理論上ニ於テハ企業家ニシテ企業ハ

盛衰ニヨリテ損益ヲ負担セサル可カラサルモノナレトモ株式カ自由ニ譲渡シ得ル結果一面ニ於テハ其ノ企業衰ヘタリト見レハ株主ハソノ株式ヲ売リヲ負担ヨリ免レントシ一面ニ於テハ其ノ企業ノ成績良好ナリト見レハ株式ヲ求メテ株主トナラントスルコトアリ、即株主ハ理論上ニテハ企業家ナルニ拘ラス事実上ハ其ノ資本ヲ利用シテ比較的ニ多クノ収益ヲ得ントスルモノナリ、此点ニ於テ利廻リ（Rentability）ノ計算ヲ必要トス利廻トハ投資ノ目的物ノ如何ヲ問ハス投資ヲ単ニ資本トシテ見タル時ニ何程ノ利子ヲ生スルカト云フコトナリ、例ヘハ一萬圓ノ投資ニ對シテ一年八百圓ノ收益アリトセハ其ノ利廻リハ八分ナリト云フカ如キモノナリ、而シテ株式ノ場合ハ株主ニ取リテ収益ヲ生ス可キハ其配当ナルカ故ニ其ノ配当カ即収益ヲ還元（Capitalize）シタルモノ（即其ノ市場ニ行ハルル利子歩合ヲ以テ除シタルモノ）以下ニテアル時ハ他ノ事情ニシテ同一ナル時ハ有利ナリト云フコトヲ得、故ニ資本ヲ所有スル者カ斯クノ如キ場合ニハ手ヒラ株式ヲ求メントスルカ故ニ株式ノ價格ハ配当ヲ還元シタル價格ニ近ツカントスル傾向アリ、但シ此ノ事ハ株式会社ノ信用ハ能テ同一ト見テ述ヘタルコトナレトモ假令配当額多クトモソノ企業ノ基礎確実ナラサル時ハソノ株式ヲ高ク賣ハントスル者無カル可シ之ニ反シテ配当額少クトモ將来多クノ收益ヲ生スル望アルモノハ比較的ニ高ク之ヲ求メントス、投言スレハ株式ノ價格ハ主トシテ利廻リトソノ企業ノ信用ニヨリテ定マルモノナリト云フコトヲ得。

以上ハ特殊ノ株式投資ニ付テ述ヘタルモ一般株式ノ價格ノ高低ハ主トシテ金融ノ緊緩ト経済市場ノ景気不景気ニヨルモノナリト云フコトヲ得、金融ノ緊緩ト経済市場ノ景気不景気ハ密接ナル関係アリテ之ヲ分離スルコト能ハサレトモ此處ニハ説明ノ便宜上分離セルナリ、金融ノ緊緩トハ上述ノ如ク資金ノ需要ノ多少ヲ意味スルナリ、金融繁忙ニシテ資金ノ需要多ク然ツテ利子歩合高キ時ハ一面ニハ所有スル株式ヲ以テ資金ニ代ヘントスル者多ク一面ニハ上述利廻ノ関係上株式價格ノ下落ス可キコトヲ認メテ之ヲ賣ラントスル者多クシテ株式ノ價格ハ下落セサルヲ得ス、之レニ反シテ金融緩漫ニシテ利子歩合低キ時ハ反對ノ現象ヲ見ルヲ常トス、然シ金融緩漫ヲ生ス可キ原因ハ種々アレトモ就中最顕著ナルハ経済界ノ景気不景気、外国

貿易ノ順逆、国際貸借ノ順逆及財政政策等ナリ、外国貿易ニシテ輸入超過トナリタル時ハ其ノ国ノ貨幣ハ多ク輸出セラルルカ故ニ他ノ事情ニシテ同シトセハ資金ノ供給ヲ減少シ其ノ需要ヲ増加スルモノナルカ故ニ金融ハ緊忙トナラサルヲ得ス、又外国貿易以外ノ原因ニヨリテ我カ国ヨリ支払フ可キ資金ヲクシテ受ケ取ル可キモノ少キ時ハ国際貸借カ逆ヲ示セリトスルモノニシテ其ノ金融ニ及ホス影響、外国貿易逆トナリタル時ト同シ、又財政並ヒニ経済政策ト金融ノ緊緩トノ関係ヲ見ルニ財政並ヒニ政策ノ目的ノ如何ヲ問ハス苟モ金融市場ニ於ケル資金ノ供給ヲ減少スル可キモノハ金融ヲ緊忙ナラシムルモノナリ、公債ノ募集ハ租税ヲ徴収シ租税率ノ増加等ノ如キモ是ナリ。

経済市場ニシテ好景気トナリ従ヒテ各企業ノ利潤多キ時ハ株主トシテハ利益多ケレトモ上ニ述ヘタルカ如キ理由ニヨリテ株主トナラントスル者多ク従ツテ株式ノ價格ハ騰貴ス、之レニ反シテ経済界不況ニシテ各企業等ノ利潤少キ時ハ株式ノ價格ハ下落セサル得サルナリ。

第八章　生産並ヒニ營利

第一節　總説

生産ハ廣義ニ解スレハ人類カ技術的手続ニヨリテ貨財ノ効用ヲ増加スルコトナリ、蓋シ人類ハ直接ニ自然物ヲ得テ其ノ慾望ヲ満足スルコト稀ニシテ自然物ニ技術的手続ヲ施シテ初メテ享樂貨財ヲ得ルナリ、技術的手続ハ極メテ簡單ナルモノアリ又復雑ナルモノアレトモ此ノ手続キヲ経テ初メテ経済ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルハ一ツナリ。例ヘハ鑛山カリ石炭ヲ採掘スルカ如キハ石炭ソノモノニハ何等ノ技術的変化ヲ生セサレトモ之レヲ採掘スルカタメニ相当ノ設備ヲ施ササル可カラサルヲ以テ石炭ノ採掘ヲ一体ト見テ生産ト称スルコトヲ得ルナリ、農業、林業、工業、運輸業ノ如キハ何レモ技術的手続ニヨリ貨財ノ効用ヲ増加スルモノナレハ之ヲ生産ト稱スルコ

トヲ得ル訳ナリ、通俗ニ生産ト云フ時ハ新シキ貨財ノ生産ヲ意味スヘシト
雖モ人類ハ一トシテ新シキ貨財ヲ産出シ得ルモノニ非ス総テ存在セル貨財
ノ形体ヲ改メ又状況ヲ変シ他ノ貨財ト結合シテ其ノ効用ヲ増加スルコトヲ
得ルニ止ルナリ。

今日ノ交換経済時代ナレハ生産ノ大部分ハ他人ノ為ニ行ハレテ而モ其ノ生
産シタル貨財ヲ他人ニ貰リテ利潤ヲ得ルコトヲ目的トセルモノナリ、営利
ノ目的ヲ以テ技術的ノ手続ニヨリテ貨財ノ効用ヲ増加スルコトカ狭義ノ生
産ナリ、経済学ニ所謂生産ハ此ノ意味ニ於テノ生産ハ客観的ニハ技術的ノ手続ニシテ主観的ニハ営利行為ナリ、生産
ヲ上述ノ如ク広義ニ解釈スル時ハ今日ノ経済社会ニ於テ生産行為ニシテ営
利行為ナラサルモノアルト同時ニ営利行為ニシテ生産行為ナラサルモノア
ルナリ、即広義ノ生産ニシテ営利行為ナラサル場合ニハ吾人ハ自己ノ欲望
ヲ満足スルタメニ生産ヲナシ彼ハ他人ノタメニ生産ヲナスモ営利ノ目的ヲ
有セサル場合ノ如キ若シクハ国家ノ如キ営利ヲ目的トセサルモノカ生産ヲ
ナス場合ノ如キハ何レモ広義ノ生産行為ニシテ営利行為ナラサル場合ナリ、

之ニ反シテ営利行為ニシテ生産行為ナラサル主ナルモノハ商業カリ、商業
ハ経済社会ニ取リテ最モ必要ナルモノナレトモ性質上シテ技術的手続ヲ会
スル迄得レトモ生産行為ト称スルコト能ハサルナリ、 英吉利ノ経済学者ハ生
産的不生産的ナル文句ヲ用ヒテ生産的ニハ社会ノタメニ有用ナリトノ意義
ヲ加味シテ経済現象ヲ批判セシカ故ニ大ナル誤解ヲ生スルニ至リタルモノ
ニシテ商業ノ如キハ英吉利学者ノ解釈ニヨレハ一種ノ生産ニシテ従ツテ経
済社会ニ取リテ有用ナルモノナリトスフナリ、然レトモ生産的若クハ不生
産的ノ文句ハ斯クノ如キ道徳的意義ヲ含ムモノニハ非ス、単ニ経済上ノ術
語タルニ止ルナリ、商業ハ技術的手続ヲ含マサルカ故ニ生産ニ非スト解釈
スルモ直チニ経済社会ニ取リテ無用ノモノナリト断スルコト能ハス、假令
貨財ノ生産アリトモ商人カ之ヲ消費者ニ致スニ非サル限リハ決シテ生産ノ
目的ヲ達スルコト能ハス、故ニ交換経済時代ニ於テハ必ス商業ハ発達シ来
ルモノニシテ従ツテ又経済社会ニ取リテ有用ナルモノナリト云フコトヲ得
営利行為ハ元私経済ノ動機ニ出ツルモノナルカ営利行為中ニハ生産行為ニ

非サルハ勿論社会上ヨリ見ルモ之レヲ排斥セサル可カラサルモノ少カラス
即チ生産ヲ廣義ニ解スル時ハ生産行爲ニシテ營利行爲ナラサルモノ存スルト同
解釈セル故営利行爲ニシテ生産行爲ナラサルモノアレトモ此處ニハ生産ヲ狭義ニ
テ営利行爲ナラサルモノナキナリ、抑モ生産ノ文字ハ初メ Physiocrat
ニヨリテ用ヰラレタルモノニシテ其ノ Mercantilism ニ於テ低リ
商業並ヒニ工業ヲ尊重シタルヲ排斥シテ商工業ノ如キハ自然ノ恩恵ニヨリ
テ得タルモノヲ單ニ位置又ハ形体ヲ変更スルニ過キス、然ルニ農業ノミハ
自然ヲ利用シテ新シキ貨財ヲ生スルモノナレハ拡リ生産ト称スルコトヲ得
ト主張セリ、英国学派ハ此ノ定義ヲ狭キニ失スルモノトナシテ苟モ肉働ニ
ヨリ貨財ノ價値ヲ増加スルモノハ生産ナリト主張セリ、之レニヨル時ハ農
工商運輸業ハ総テ生産ト称スルコトヲ得ルナリ、而シテ英国学派ハ上ニモ
述フルカ如ク有形物件ノ價値ノ増加ノミニ重キヲ置キテ生産的不生産的ノ
区別ヲ立テ利用（有）営ノ批判ヲ加ヘタルモノナレハ拡遥学者ハ之ヲ攻撃シテ
有形物件タルト否トヲ問ハス苟モ價値ヲ増加スレハ生産ニシテ價値ヲ減少

セハ消費ナリト説明シタリ、吾人カ飲食セハ消費ナルコトハ興論ナキモ石
炭ヲ用ヒテ工業ヲ行ヒタル場合ニ價値ノ減少即消費ナリト云フコトヲ得ル
カ否カハ疑問ナリ、故ニ是等ノ学者ハ生産的消費ナル文字ヲ用ヒテ普通ノ
消費ト区別セントシタリ、次ニ生産ヲカク廣ク解釈スル時ハ生産ト消費ト
ハ行爲ソノモノニ於キテ区別スルコト能ハス、ソノ結果ニ於キテ区別セサ
ル可カラサルコトヽナル、例ヘハコヽニ商人アリテ甲地カ乙地ヨリ價格高
ク從ツテ價値大ナルモノナリト豫想シテ乙地ニ於テ買入レテ甲地ニ於テ賣
リタルモノトセハソノ豫想ノ如クニ利潤ヲ得ハ商業ハ生産ト称シ得ルモ豫
想ニ反シテ損失ヲ招キタル時ハ生産ニ非スト云ヘサル可カラス、斯クノ如
キハ却ツテ生産ノ意ヲ不明ナラシムルモノト云ハサル可カラス、故ニ Rust
学派ノ者ハ生産ニ道徳的意義ヲ含味スルコトヲ退ケテ單純ニ経済学
上ノ術語ト見サル可カラサルモノナリト唱ヘ同時ニ生産ト営利トノ観念ヲ
区別シテ上ノ如クニ生産ノ解釈ヲ下シタルナリ、即チ此ノ見解ハ伯也英独
両学派ノ生産ニ関スル見解ノ欠點ヲ修正シタルモノナリト見ルコトヲ得、
生産ト営利トカ観念上区別スルコトヲ得ルト同シク生産力ト利益トハ観念

上区別スルコトヲ得、一定量ノ或ル資財ヲ利用シテ比較的多クノ収益ヲ得ル時ハ其ノ資財ノ生産力大ナリト云フ、例ヘヘ或ル土地カ肥沃ニシテ一定ノ面積ヨリ多量ノ収穫ヲ挙クルコトヲ得タルトキハ其ノ土地ノ生産力大ナリト云フナリ、之ニ反シテ一定量ノ資本ヲ利用シテ比較的ニ多クノ利潤ヲ挙クルコトヲ得タル時ハ其ノ利廻リ宜シト云フナリ、而シテ一定量ノ資本ヲ利用スト云フモ上ニ述ルカ如ク資本ソノモノトシテ利用スルニハ非スシテ或ル資財ノ形態ニヨリテ之ヲ利用スルニ外ナラサレハ資本ヲ利用シテ比較的ニ多クノ利潤ヲ得ルト云フコトヘ抽象的観念ニ外ナラス、例ヘハ一定ノ面積ノ土地ヲ耕ストモ私経済ノ見地ヨリ観察スル時ハ若干ノ資本ヲ利用スト云フヲ得ルガ如シ、其ノ土地ヨリ生スル収穫ヲ費リテ多クノ利潤ヲ得ル時ハソノ土地ヲ耕スコトノ利廻リハ比較的ニヨシト云フコトヲ得ル譯ナリ、ソノ利潤ノ多少ハ勿論ソノ収穫物ノ價格ニシテ同一ナリトセハ収穫即生産力ノ多少ニヨリテ定マルコトヲ得ト云ヒ得ルモ價格ハ需要供給ノ関係ニ依リテ変動スルモノナレハ生産力ノ多クトモ必スシモ利潤多ク従ツテ利廻リ宜シト云フコト能ハサルト同時ニ生産力小ナリトモ其ノ生産シタル物ノ價格ニシテ高カリシ時ハ利廻リヨシト云フコトヲ得ルナリ、即チ生産力ハ事実上ノ観念ニシテ数量ノ多少ヲ意味スルニ反シテ利廻ハソノ資財ヲ資本ト見テ如何程ノ利潤ヲ生ス可キカヲ示スニ外ナラス、前者ハ国民経済ノ問題ニシテ後者ハ私経済上ノ問題ニ外ナラス。

Adam Smith ハ一国ノ資本及労働ハ私経済上最モヨク利用スルコトヲ得ル時ハ国民経済上最モヨク利用スルコトヲ得タルモノナリト説明セルモ此ハ既モナク生産力ト利廻トヲ混同セルモノニ外ナラス、例ヘハ其ノ国ノ資本労働ノ全部ヲ私経済的ニ利用セスシテ其ノ一部ヲ裂キテ道路港湾学校等国民ノ幸福ヲ増進スルニ必要ナルモノニ用ヒタリトセハ私経済上ノ見地ヨリスレハ最モ多ク利潤ヲ挙ケタルモノナリト云フコト能ハサルハ明ナルコトナリ、従ツテ此ノ例ヨリ考フルモ「アダム、スミス」ノ説ケル所ハ或程度マテハ正シカルヘキモ全ク正シト云フコト能ハス、之レト反対ニ一派ノ学者ハ国民経済上ノ利益ヲ進ムルコトハ私経済上ノ利益ヲ進ムルコトヽ全ク反セルモノナリト説ク者アレトモ此ノ論ハ又極端ナル論ナリト云ハサルヲ得ス、或程度マテハ両者ハ一致スルモノナルト同時ニ或者ハ全然

一致セルモノニハ非ス、換言スレハ或程度マテハ生産力ノ大ナリト云フコトハ利潤ノ良イト云フコトトハ一致セルニ相違無ケレトモ其ノ程度ヲ超ユル時ハ生産力ヲケレハ却ツテ利潤宜シカラス、又反對ニ生産力甚タ少キ時ハ却ツテ利潤ノ良キ場合ヲ生ス、之レヲ要スルニ生産力ト利潤トハ概念上區別セサル可カラサルナリ、

Ricardo ノ経済原論モ極端ナリ。

第二節　土地ノ生産力

生産ニ関スル経済法則中最モ重要ナルハ收穫逓減ノ法則ニシテ土地ノ生産力ニ関スルモノナリ、生産要素中労働並ヒニ資本ニ付キテハ殆ニ逆ナル如ク收穫逓増ノ法則ノ行ハレサルニ反シテ土地ノ生産力ノミニハ此ノ法則カ行ハルルカ故ニ経済上種々ノ結果ヲ生ス。土地カ生産要素トシテ重要ナルハ廃物ヲ積載スルノ能力アルコト、殖物等ヲ包藏スルコト及ヒ植物ヲ培養スル能力アルカタメナリ、前二者ハ之ヲ増加スルコト能ハサレトモ殖リ植物ノ培養力ハ人力ヲ以テ或程度迄ハ之ヲ増加スルコトヲ得ルモノナリ、太古ノ人民ハ人力ニヨリテ土地ノ培養力ヲ増加シ得可キコトヲ知ラサリシモノナレハ天然ノ生産力ノミニ委ネテ資本労働ヲ以テ其ノ生産力ヲ増加スルコト甚タ少キ農法ヲ学者ハ粗笨的農法ト云フ、然ルニ文明ノ進ムニ從ヒテ資本並ヒニ労働ヲ以テ土地ノ生産力ヲ増加シ得ルニ至レリ、資本労働ヲ用フルコト多キ農法ヲ集約的農法ト云フ、蓋シ粗笨的農法ハ一定ノ收穫ヲ得ルニ比較的ニ広キ面積ヲ要スルニ反シテ集約的農法ハ比較的ニ狹キ面積ヲ以テ足レリトスルカ故ナル可シ。

斯クノ如クニ土地ノ生産力ハ人爲的ニ増加スルコトヲ得レトモ其ノ生産力ノ増加ニハ制限アリ、之ヲ收穫逓減ノ法則ト云フナリ、即チ土地ノ耕作ハ初メハ資本労働ヲ増加スルニ伴ヒテ收穫即生産力ヲ増加スル事ヲ得レトモ或程度ヲ越ユルトキハ資本労働ヲ増加スレハ收穫ノ量ハ之ヲ増加スルコトヲ得レトモ資本労働ヲ増加シタル場合ニハ之ヲ増加スルコト能ハスト云フナリ、換言スレハ資本労働ヲ増加スルニ從フテ絶對ニハ收穫ヲ増加スルコトヲ得ルモ相對的ニハ之ヲ増加スルコト能ハス。此ノ法則ニ付キテ注意スヘキハ(一)ハ此ノ法則ハ土地ノ生産力ニ関スルモノニシテ利潤ニ関スルニ非

サルコトナリ、土地ノ生産力ハ或限度ヲ越ヘテハ資本労働ヲ増加スル割合ニハ増加スルモノニ非ス、従ツテ同一ノ生産額ヲ得ルニハ生産力ヲ増加セサル可カラサルモノナレハ農産物ノ價格ニシテ騰貴セサル以上ハ利廻ハ劣ラサル可カラサル理ナリ、然レトモ若シ農産物ノ價格ニシテ生産力ノ増加ニ比較シテ多ク騰貴シタル時ハ利廻トシテハ必スシモ不利益ナリト云フコト能ハサル訳ナリ、但シ多クノ場合ニ於テハソノ同国ノ土地ノ生産力ノ増加力此ノ法則ノ結果トシテ未タ減少セルニ拘ハラス其ノ土地ノ生産力ノミカ増加シ難クナルコトアルヲ以テ農産物ノ價格ノ騰貴カサマテ大ナルコトヲ得スシテ而モ其ノ土地ノ耕作ノ利廻リカ従前ニ比較シテ宜シカラサルコトヽナルナリ、(二)ニハ此ノ法則ハ土地ノ生産力ハ或ル限度ニヨリテ相對的ニハ増加セサルコトヲ説ケルモノニシテ土地ノ生産力ハ或限度ニ達スレハ資本労働ヲ増加スルモ全然増加スルモノニ非ストノ説クモノニハ非サルコトナリ、已ニ土地ノ生産力カ相對的ニ増加スルモノニ非サル以上ハ営利ノ念ニ基キテ農業ヲ営ム者カ利廻リノ宜シカラサルニモ拘ハラス内道ミテ資本労働ヲ増加シテ其ノ生産ヲ永続スルノ道理ナシ、土地ノ生産力ニハ絶對ニ

之レヲ増加スルコト能ハサル限度アリヤ否ヤハ経済上重キヲナス問題ニハ非ス、(三)ニ此ノ法則ノ行ハル、限度ハ決シテ一定不動ノモノニハ非ス或程度迄ハ農業技術ノ改良ニヨリテ之ヲ動カスコトヲ得ルモノナリ、農法ノ進歩有効ナル肥料ノ発明農具農業機械ノ改良発明交通機関ノ発達ノ如キモノナリ、此ノ法則ノ行ハル、限度カ一定不動ノモノニアラサルコトヲ根據トシテ此ノ法則ヲ否認セントスル学者アリ、其ノ論旨ハ今日農業ニ此ノ法則ノ行ハル、ヘキ筆竟農業ノ技術カ進歩セサルカ故ナリ、若シ其ノ技術カ進歩シテ此ノ法則ノ行ハル、限度ヲシテ大イニ高ムルコトヲ得タル時ニハ土地ノ生産力ハ資本労働ヲ増加スルニ伴ヒテ之ヲ増加スルコトヲ得ルモノト云ハサル可カラス、従ツテ此ノ法則ノ存在スルト否トハ実際上何等ノ差異ナキニ至ル可シト云フナリ。

此ノ説ヲ是認スルニハ農業ノ進歩ニヨリテ此ノ法則ノ行ハル、限度ヲ極端ニ高クシ得ルコトヲ證明セサル可カラス、然ルニ現今ニ於テハ未タ之ヲ為スコト能ハス、假リニ理論上之レヲ為スコトヲ得トスルモ現今農業技術ノ進歩カ未タソノ域ニ達セサル限リハ此ノ法則ヲ否定スルコト能ハス。

土地ノ生産力ニ比ノ法則カ行ハル、結果地價地代農産物ノ價格ハ人口ノ増加ニ從ツテ上地ノ需要ノ増加ニ伴ヒテ騰貴スルモノナルコトハ前述セシ所ナリ更ニ国民経済ノ観察点ヨリ重大ナルハ文明ノ進歩スルニ伴ヒテ諸国ハ農業ヲ以テハ其ノ国ノ人口ヲ養フコト能ハサルニ至ルコトナリ、若シ土地ノ生産力ニシテ資本労働ノ増加ニ伴ヒテ絶對的ニモ相對的ニモ増加スルモノナリトセハ諸国ハ其ノ人口ヲ養フ上ニ於テ困難ヲ見ルコトナキ訳ナレトモ其ノ生産力ニシテ制限ヲ受クルモノトセハコヽニ幾多ノ問題ヲ生セサルヲ得ス（説一）ニハ人口増加ト食料品トノ関係ナリ、故ニ先ツ此ノ問題ヨリ簡單ニ述ヘン、人口増加ト土地ノ生産力即食料品トノ関係ハ経済学上重要問題ノ一ナリ、此ノ問題ニ付キテ最モ悲観的断案ヲ下シタルハ R. Malthus ノ人口論ノ梗概ヲ説明シ、現今経済学者カ本問題ニ付キヲ論セル所ヲ紹介セン。

Malthus ノ人口論ノ骨子ハ食料品ノ増加即土地ノ生産力ノ増加ハ到底人口ノ増加ニ適スルモノニ非ス、其ノ結果人類ハ経済生活ヲ営ムニ当リテ大ナル困難ヲ感セサルヲ得ス、社会ノ繁榮ハ多クハ之レニ胚胎シタルモノニ

シテ人類ヲシテ幸福ナル生活ヲ営マシメントセハ其ノ理性ニ基キテ妄リニ人口ヲ増加スルコトナク以テ人口ノ増加ヲシテ食物ノ増加ニ調和セシメサル可カラスト云フナリ、蓋シ Mercantilism ノ時代ニ於テハ衛軍ニ人口ノ増加ヲ以テ其ノ国経済力ノ発展トナシ其増加ヲ奨励シタリ、英国ノ救貧法ノ如キハ其ナリ、即チ貧窮者ニシテ子女ヲ挙クルモ之ヲ養フコト能ハサル者ニ對シテハ公費ヲ以テ之ヲ養フトスル、此ノ Mercantilism ノ思想ハ人口増加ノ生産的方面ヲ顧リミサルモノナリ、換言スレハ人口増加スルモ之ヲ養フ可キ食料ノ有無多少等ハ顧ミサリシ論ナリ、Malthus ハ此消法ノ精神ニ反ヒテ抑ミテ一七九八年ニ人口論ヲ著シテ之レヲ攻撃シタルナリ、其ノ人口論ハ独リ経済学ニ於テ大著述ナルニ止ラス彼ノ Darwin ノ進化論ノ骨子ヲナセルモノナリ Malthus ノ説ハ人類ノ間ニハ食物ノ不足ノタメニ自然淘汰ノ法則行ハレテ適者即食物ヲ得ル者ノミカ独リ生存スルコトヲ得レトモ然ルニ者ハ生存スルコト能ハサルモノナリト云フ、Darwin ノ進化論ハ其ノ理ヲ押延ケテ生物ノ間ニハ自然淘汰行ハレテ進化ノ現象ヲ見ルモノナリト云フコ

トヲ明ニセルナリ。

Malthus ハ以上ノ結論ヲ得ルカ為メニ食物ノ為メニ制限ヲ受ケサル時ハ人口ハ如何ナル速度ヲ以テ増加ス可キヤヲ明カニセントスルニシテ而モ食物ノ豊富ナル米国ヲ選ヒテ其ノ人口増加ノ速度ヲ研究シテ同国ノ人口ハ二十二年餘ニシテ倍加スル事実ヲ得タリ同国ノ人口増加ハ独リ出産ノミニヨルニ非スシテ或ル程度マテハ移民ニヨルモノナルカ故ニ若シ此リ出産ニヨルモノトスレハ二十五年ヲ以テ倍加ス可シト断シテ其ニ人口ハ病不然何級数的ニ増加ス可シ、然ルニ之ヲ養フ可キ食物ハ之ニ伴ヒテ増加スルコトヲ得ス、僅カニ算術級数的ニ増加スルニ止ルモノナリ、既ニ人口ノ増加率ト食物ノ増加トノ間ニ甚タシキ懸隔アリ。食物ナケレハ生存スルコト能ハサル以上人間ノ中ニ於テカ弱クシテ食物ヲ得ルコト能ハサル者ハ生存スルコトヽニ於テカ生活難ノ問題ヲ生ス、生活難ニ基フ社会各般ノ問題ヲ生スルナリ。

食物ノ増加率ト人口ノ増加率トノ間ニ懸隔ナカリセハ此ノ種ノ問題ハ生セ

ス而シテ人類ノ生活ハ遂ニ幸福ナルコトヲ得ヘシ、但シ実際ニ於テ人口ノ増加ト食物ノ増加トノ間ニ此度ニ云フカ如キ懸隔ナキ所以ハ人類カ自由意志ニヨリテ人口ノ増加ヲ制限スルカ故ナリ。更レフ豫防制限ト云フ　豫防制限ニ道徳的ノモノアリ不道徳的ノモノアリ。前者ハ早婚ヲ慎シムカ如キコトヲ云フ、後者ハ私児、堕胎、避姙ノ如キモノヲ云フ、古来矣ニ行ハル、所ナリ、然レトモ之等ノ豫防制限ノ尚未タ人口ト食物トヲ調和スルコト能ハサルモノナレハ此活難ヲ初メ種々ナル原因ヨリシテ人口ノ増加ハ制限セラルヽナリ、積極的制限ナリ、飢饉戦争、疫疫、貧困、過度ノ労働、不完全ナル育児法等是ナリ。

人類ニシテ豫防制限ヲナスコト少キ時ハ積極的制限ノ多フ行ハルヽコト明白ナレハ人類カ幸福ナル生活ヲ営ムコトハ道徳的豫防制限ヲ行ヒテ以テ人口増加ト食物ノ増加トノ間ニ甚タシキ懸隔ヲ生セシメサルコトヲ努メサル可カラス、諸国ニ於テ行ヒタル人口増加奨励策ノ如キハ人口増加ト食物ノ増加トノ間ニ益々懸隔ヲ生セシムルモノナレハ之レヲ排斥セサル可カラスト云フナリ。

Malthus ノ人口論カ公ニセラル、ヤ其ノ反響ハ頗ル大ナリ、其ノ内一二ヲ挙クレハ(一)ハ社会主義者ハ之レニ猛烈ニ反對セリ Malthus ハ生活難ヲ初メ現代経済社会ノ弊害ハ人口ノ増加ト食物ノ増加トカ調和セサルニ基クモノナルカ故ニ人口ノ増加ヲ適度トナシテ食物ノ増加ト調和セシメサル限リハ到底之ヲ救済スルコト能ハサルコトヲ主張セルヲ以テ社会主義者ノ主張トハ大イニ異レリ。社会主義者ハ前ニモ述フルカ如ク社会ノ弊害ハ私有財産制度並ニ之レニ基ク資産階級ノ横暴ニヨルモノナレハ之ヲ破壊セントスルモノナリ、從ツテ Malthus ノ論ニシテ正當ナリトセハ假令私有財産制度ヲ破壊スルモ社会ノ弊害ヲ救治スルコト能ハスト云フコトヽナリ、從ツテ其ノ主張モ運動モ無益ナリト云フコトヽナレハナリ、然レトモ Malthus ノ論スル所ハ下層ノ者カ生活ノ困難ヲ訴フル主ナル原因ハ人口ト食物トノ調和ヲ得サルコトヲ主張セルモノニシテ社会主義者ノ云フカ如ク私有財産制度ヲ破壊スルモ之ヲ全ク救治スルコト能ハサルナリト云フ点ニ於テハ社会主義者ノ主張トハ大イニ異レルモ Malthus ノ論スル方カ正シカル可シ、但シ私有財産制度ノ破壊毒カ如何ナル程度ニ於テ生活難等ヲ緩和シ得ルカハ全ク別問題ニ云サル可カラス。

Spencer 等ノ社会学者ノ一派ハ Malthus ノ説ヲ駁シテ曰ク、Malthus ハ人口ハ永久ニ二十五年毎ニ倍加ス可キモノナリト論スレトモ是レハ大ナル誤謬ナリ、凡ソ生物ニハ自己保存ト種族ヲ繁殖スルトノ二本能アリ、繁殖力ト保存力トハ相反セルモノナリ、下等ノ生物ハ繁殖力大ニシテ自己保存力ハ小ナレトモ高等生物ニナルニ從ヒテ繁殖力衰ヘテ自己保存力ハ増進スルモノナリ、人類ハ今日 Malthus ノ云ヒシカ如クニ十五年ニシテ倍加スルモノナリトスルモ文明ノ進歩個性ノ完成ニ伴ヒテ繁殖力衰ヘ未ラサル可カラス、一方ニ文明ノ進歩人智ノ発達ニ伴ヒテ食物増加ノ道開クヲ以テ Malthus ノ云フカ如クニ人口ト食物トハ永久ニ調和セサルモノニハ非スト説明セリ。

飯リニ此ノ説正シトスルモ人口ト食物トカ調和シ得可キコトハ遠キ時代ノコトニ属シ少クトモ近キ將来ニ於テハ之ヲ望ムコト難シ從ツテ Malthus ノ云フ如ク人口ノ増加ハ食物ノタメニ抑制セラレテ從ツテ社会ノ弊害ハ之ヲ避クルコト能ハスト云ハサル可カラス。

社会学者ノ一派ハ Malthus ノ救済策ニ関シテ反対シテ曰ク Malthus ノ豫防制限ハ道徳的ノモノニ非サレハ人類ヲ幸福ナラシメズト論スレトモ世ノ中ニテハ自ラ不道徳的豫防制限ヲ用ヰントスル工夫アリ、現ニ諸国ヲ通シテ遊惰ノ風漸ク盛ナラントス、此ハ社会道徳ヲ着シク退歩セシムルモノナリ、假リニ一歩ヲ譲リテ道徳的豫防制限カ行ハルヽスルモ此ノ事ハ社会優良ナル分子ノ間ノミニシテ然ラサル階級ハ之ニ従ハストセハ畢竟社会ノ優良ナル分子ハ増加セスシテ然ラサル者カ多ク増加スルコトヽナリテ人類ノ質ヲ退化セシムルノ結果ヲ生ス、此ハ社会ノタメニ大イニ患フ可キ事ナリ。

此ノ非難ハ一面ノ真理ヲ含ムモノニシテ Malthus ノ人口論出テヽヨリ社会ノ思想ハ大イニ動キテ諸国ハ人口増加奨励策ヲ捨テタルノミナラス国ニヨリテハ一時ニ児制度ヲ廃絶スルニ至リシナリ、而シテ不道徳的豫防制限カ盛ンニ行ハレテ社会ノ道徳ヲ退歩セシメタルモノ少カラス、然レトモ之ヲ以テ Malthus ヲ責ムルハ酷ナルノミナラス之ヲ以テ其ノ学説ヲ顚覆スルコト能ハサルナリ。

現今経済学者ノ多数ノ此ノ説ニ對シテ取レル態度ハ Malthus ノ人口増加ハ食物ニヨリテ制限ヲ受ケ之カ惨メニ Malthus ノ云フカ如キ弊害ヲ生ズルコトハ之ヲ是認セリ、併セテ人類ハ其ノ理性ニ基キテ妄リニ人口ヲ増加セシム可カラストノ結論モ之ヲ是認セリ、然レトモ Malthus ノ人口ハ二十五年ニシテ倍加ストノ所説ニハ反對セリ、何トナレハ上ニモ述フルカ如ク其ノ所説ヲ下スタメニ撰ヒタル米国ハ人口ノ増加率ヲ測定スル上ニ於テ適当ノモノナリヤハ疑ハシ、同国ハ植民地ナリ之レヲ組織スル人口ハ比較的ニ繁殖力ノ盛ナルモノナリ、從ツテ其ノ人口ノ増加率ハ非常ニ速カナリト云ハサルヲ得ス。

歐羅巴諸国ニ至リテハ常ニ老若各般ノ人口ヨリ成ルモノナレハ厳令食物ノ制限並ヒニ各種ノ人口増加ヲ妨害ス可キ原因ナクトモソノ人口倍加ノ速度ハ遙ニ緩カトセサルヲ得サルモノナリ、又 Malthus ハ食物ノ増加率ハ算術級数的ニ増加スト所説ヲ下シタレトモソノ論據明カナラスト攻撃セリ、即古来食物ノ増加率ハ国民ノ知識勤勉等ニヨリテ一様ナラサレトモ人口ノ事実上ノ増加ヲ以テ食物ノ増加ヲ推シ測ル時ハソノ増加ノ速度ハ Malthus

ノ云フカ如ク遅キモノニハ非サルモノノ如シ、故ニ一面人口増加率ニシテサマヲ急速ナラシストセハ農業ヲ発達セシメテ食物ノ増加ヲ計ル時ハ假令人口ノ増加ヘ常ニ食物ニヨリテ制限セラル、トハ云ヘ其ノ調和ノ程度ハ Malthus ノ云フカ如ク甚シキモノニハ非ラス、Malthus カ人口増加ノ節制ヲ説キテ食物増加ノ奨励ヲナサザルハ決シテ公平ナル見解ト云フコト能ハス、但シ食物ヲ得可キ地球ノ面積ニハ限アリ、加フルニ収穫逓減ノ法則ノ行ハルル以上ハ食物ノ増加ハ無限ナルコト能ハス、從ツテ地球ハ如何程マデノ人口ヲ養ヒ得可キヤノ問題ヲ生セサルヲ得ス、Schmoller ハ其ノ経済原論中ニ諸学者ノ研究ヲ綜合シテ現今世界ノ人口ハ約一五億ナリ、現今知ラルル生産技術ヲ蓋シテ自然ヲ利用スル時ハ六〇億乃至一二〇億ノ人口ヲ養フコトヲ得ト云ヘリ、且近年生産技術ノ改良発達著シキモノアリテ地球カ遂ニ増加スル人口ヲ養フコト能ハサル日ハ蓋シ遠カル可シト考ヘラル、又 Lexis ハ地球ノ面積カ悉ク利用セラルヽ日ハ到底四五百年ノ中ニハ到達スルコトナカル可シト云ヘリ、

是等ノ説ニシテ大ナル誤ナシトセハ世界カ人口過剰ノ爲メニ甚シマサルヲ得サル時ハ近キ將来ニハナシト云ハサル可カラス、

然レトモ此ハ全世界ヲ一体ト見テ人口過剰ノ現象ハ容易ニ見ルコト無カル可キコトヲ云ヘルモノニシテ国ニヨリ土地ノ肥沃ノ程度モ異リ從ツテ生産力モ同シカラサルノミナラス人口網密ノ程度モ亦同シカラサルカ故ニ自ヲ人口過剰ノ国ト人口過少ノ国トヲ生セルナリ、人口過剰ト雖モ関係的ノ語ニシテ絶対的ノモノニ非ス、絶対的過剰ト云フコトハ其ノ国ノ生産力ヲ如何ニ増加セシメントスルモ又如何ニ社会政策的施設ヲ行フモ到底其ノ人口ヲ養フコト能ハサル状態ヲ云フモノニシテ若シカヽル状態ノ国アリトセハ其ノ国ノ人口ヲ他ノ人口稀薄ナル国ニ移スヨリ外ニ途ナキナリ、然レトモ此ノ事ハ欧羅巴諸国ノ如クニ人口稠密ナル處ニ於テモ一二ノ地方ヲ除キテハ存在セス、故ニコヽニ人口過剰ト云フハ相對的人口過剰ト云フコトニ外ナラサルナリ、即チ其ノ国ノ生産力ハ尚之ヲ増加スルノ餘裕アリ、又社会政策的ノ施設ヲ行ハハ其ノ国民ヲ養フ上ニ於テ困難ヲ除クコトヲ得ル望アルニ拘ラス現今ノ状態ニ於テハ人口多キカ爲メニ食物ヲ得ル上ニ於テ困難ヲ見ル状態ヲ云フ人口過少トハ之ト反對ニ其ノ国ノ人口稀薄ニシテ到底其

国ノ自然ノ富源ヲ利用スルコト能ハサル狀態ニ在ルモノヲ云フ、人口過剰ノ国ニ於テハ如何ニセハ其ノ国ノ人口ヲ養ヒ得可キカハ極メテ重大ナル問題ナリ、人口ノ一部分ヲ他ニ移ス方法トシテハ植民地ヲ設クルコト、移民ヲ奬勵スルコト、ノ二アリ、前者ハ我国ノ統治权ノ下ニ於テ本国ヲ離レテ新シキ社会ヲ設クルコトニシテ最モ望マシキコトナレトモ植民地ヲ設フルコト ハ昔ト異ナリテ決シテ容易ナラス、之ニ反シテ移民ハ他国ノ統治权ノ行ハルル處ニ人口ノ一部分ヲ移スコトヲ云フ、移民ハ昔ニアリテハ其ノ国ノ経済力並ヒニ兵力ヲ失フヲ理由トシテ之レヲ禁圧シタレトモ十九世紀ニ入リテヨリハ之レヲ禁圧セサルノミナラス移民ニ對シテ尊ロ保護ヲ與フルニ至レリ、然レトモ其ノ利害得失ニ付キテハ議論アル所ニシテ一定セス、故ニ経済ノ発達セル国ニ於テハ工業ヲ振興シテ過剰ノ人口ヲシテ之レニ從事セシメテ其ノ工業品ヲ経済ノ本夕発達セサル国ニ輸出シテソノ農産物ヲ輸入シテ人口ヲ養フモノ多シ、蓋シ工業ニ於テハ收獲遞増ノ法則行ハルヽヲ以テ之ニ從事スル人口多キ時ハ生産額ハ益々増加シ得ルヲ以テナリ。

然レトモ学者ノ中ニハ所謂工業国ハ將来ニ付キテ悲觀スル者少カラス、其ノ理由トシテハ(一)若シ今日農産物ヲ供給スル国ニシテ経済ヲ発達セシムル時ハ其ノ国ノ人口ヲ養フタメ從来輸出シタル食物ヲ其ノ国ニ於テ消費スル可キヲ以テ工業国ニ之ヲ供給スル餘裕ナキニ至ルヤモ知レス之ト同時ニ從来工業品ヲ輸入シタル国ニシテ自ラ工業ヲ起ス時ハ工業国ヨリノ工業品ノ販路ハ漸次縮小セサルヲ得ス、今日ノ工業国ニシテ長寿ノ新進国ノ為ニ工業品ノ販路ヲ失フト同時ニ人口ヲ養フ可キ食物ヲ得ルコト困難トナルモノトセハ工業国ノ前途ハ決シテ楽觀ヲ許サスト云フナリ、又(二)ニハ工業ニハ收獲遞増ノ法則ノ行ハルヽハ工業ノ本夕大イニ繁栄セハ同シク收獲遞減ノ法則行ハル可シ、何トナレハ工業ノ原料ニハ收獲遞減ノ法則行ハルルカ故ニ其ノ價格ハ騰貴シテ其ノ結果ハ経済上工業ヲ拡張スルコト能ハサル時機到来スルヤモ知レス、故ニ工業国ノ前途モ楽觀ヲ許サスト云フナリ。

後進國ニ於テ工業起ルトモ先進工業国ハ其ノ工業品ノ販路ヲ得ルニ苦シヤサル可シ何トナレハ外国貿易ハ独リ工業国ト農業国トノ間ニ行ハルルモノ

ニ非スシテ工業国相互ノ間ニ於テ存在スルモノノミナラス是等ノ後進國ノ経済ニシテ進歩スル時ハ其ノ消費力ヲ増加スルカ故ニ先進国ヨリ工業品ヲ輸入スルニ相違ナシ、假リニ一歩ヲ譲リテ先進国カ後進国ノ市場ニ於テ工業品ヲ輸出スルコト能ハサルニ至ルモ一方ニ於テハ経済ノ尚甚タ幼稚ナル国カ経済ノ発達ニ伴ヒテ工業品ヲ輸入スルニ至ル可キカ故ニ先進国ハ其ノ販路ヲ失フコトナカル可シ、是レト同シク假令從来是等工業国ニ農産物ヲ輸出シタル国カ其ノ人口ノ増加ニ伴ヒ農産物ヲ輸出スルコト能ハサルニ至ルモ從来世界経済ト関係ナキ国カ経済ノ発達スルニ伴ヒテ農産物ヲ供給スルニ至ル可ケレハ少クトモ先進国ノ農産物ヲ輸入スルコト能ハサル日ハ甚タ遠カラサルヲ得ス、故ニ此ノ点ニ於テ工業ノ將来ニ付キテ悲観スル道理ナシ、從ツテ人口過剰ノ国カ人口ヲ養フ上ニ於テ最モ安全ナル方法ハ其ノ国ノ工業ヲ振興スルニ在リト云フコトヲ待、(二)ノ点ニ付キテハ收穫遞増ノ法則ヲ論スル時ニ譲ル。

経済學終り

大正十一年十二月五日　印刷
大正十一年十二月十日　發行

（非賣品）

編輯兼發行　東京市麹町区飯田町六丁目一番地
印刷者　前田政五郎

印刷所　東京市麹町区飯田町六丁目一番地
北光社
振替東京二五一五一番
電話九段二六一九番

14
688

終